

8. 健康疫学研究室

平成19年度は、「健診データ収集システムの確立事業」におけるデータ解析および結果報告書の作成、「おたっしや調査（鴨川市との共同）」、「運動を中心とした健康づくりへの参加と脳の健康（認知機能）の関連」、また、千葉県自殺対策事業における統計的な分析等を担当した。その他の事業として健康福祉センター、市町村職員のための保健情報（データ）活用研修を実施した。平成17年度に立ち上げられた健康福祉リソースセンター事業の健康情報発信主体として健康に関する情報発信を継続した。また、千葉県大規模コホート研究の開始に向け準備を開始した。

1) 調査研究

(1) 基本健康診査データ収集システム確立

老人保健法に基づき行なわれている基本健康診査は、千葉県全体で毎年60万人が受診している。これらの健診データを有効に活用できるようにするため、測定機関の異なる検査データを標準化した上で収集・解析するシステム構築を行った。平成15年度から平成18年度まで協力の得られた市町村から毎年約5万人の基本健診データを収集し、市町村間で健診項目別の判定区分の比較や検査値の経年変化の分析を実施している。

平成19年度は、収集したデータについて経年変化の解析や平成20年度から開始される特定健診の判定に準じた健診結果の階層化等を行い、報告書を作成した。報告書は県及び各市町村、健康福祉センターへ送付するとともに、健康疫学研究室ホームページで公表した。22の協力市町村には別に結果データを送付した。研究成果の一部は第46回千葉県公衆衛生学会において発表した。

(2) おたっしや調査

鴨川市・天津小湊町（現：鴨川市）における生活習慣と生活習慣病発症の関連を解明して健康施策に反映することを目的とし、鴨川市の40歳以上の全住民23,000人を対象とした大規模コホート調査事業である。平成15年度に千葉県、鴨川市、天津小湊町、東京大学、衛生研究所が共同で開始し、平成20年度まで実施する予定である。平成19年度は、基本健康診査データ、介護情報および死亡情報データを収集した。また、追跡調査への同意者5,976名に、平成15年度と生活習慣を比較するための栄養調査を2月に実施し、4,651名(77.8%)から回答を得た。

(3) 運動を中心とした健康づくりへの参加と脳の健康（認知機能）の関連

健康生活コーディネート事業参加者73名とその対照群として健康生活コーディネート事業非参加者81名の協力を得て、健康生活コーディネイトプログラムの認知機能への短期的な影響を検証することを目的に研究を行った。測定ツールとしてコグヘルス・かなひろいテストを用いた。研究報告書を作成し、健康疫学研究室ホームページで公表している。

(4) 千葉県自殺対策事業

県の自殺対策事業（健康づくり支援課）の基礎資料とするため、平成13年度から平成18年度までの死亡データを使用して年齢調整死亡率、SMR、粗死亡率等を健康福祉センター別に算出した。分析結果は「分析結果報告」としてまとめ、県に報告した。

2) 健康福祉リソースセンター事業

平成17年度から、将来的には千葉県の健康に関する総合的な情報の収集・解析・発信の拠点となることを目的とした健康福祉リソースセンター事業を開始した。

平成19年度は、県内健康福祉センター、千葉市および船橋市の保健所の事業年報の更新、News In Health（米国国立衛生研究所発行）の翻訳版（2007年4月～2008年2月号）を掲載した。また、厚生労働省統計情報データベースを利用し、県内の市町村基本健康診査の判定結果を健康福祉センター別または二次医療圏別に図示する「基本健康診査グラフ作成システム」を開発し、ホームページに「千葉県基本健康診査報告（グラフ作成システム）」として掲載した。県内および近隣都道府県で開催される一般向け健康関連の講演会の情報提供を開始した。

3) 保健情報（データ）活用研修

健康福祉センター及び市町村職員を対象に、保健情報を有効活用するための基礎的統計分析の研修会を平成16年から実施している。

平成19年度は、初級コース1回（7月26日 教育会館）、中級コース2回（8月21日・2月1日 社会保険船橋保健看護専門学校）を開催し、参加者数は初級72名、中級32名であった。中級コースではパソコンを使った演習も実施した。